高岡市男女平等推進プラン情報誌

ありーて

2012.3
11号

わたしの未来はわたしが創る

特集 男女平等・共同参画社会ってなに？……p2

■男女がいきいきと働ける事業所紹介……p6

■高岡市男女平等推進プラン後期事業計画＆
高岡市ＤＶ対策基本計画策定のご案内……p6

■セピア色の写真から／東　外枝さん……p7

■センター活動登録団体紹介　ほか……p8

「ありーて」は
自分の力で問題を解決していく
イギリスの童話
「アリーテ姫の冒険」の
主人公の名前です。

特集 男女平等・共同参画社会ってなに？

「男女平等・共同参画」と聞いただけで、**自分とは関係ない、難しそう、**と思っていませんか？

編集員自身が、富山県男女共同参画推進員高岡連絡会のミニ地区懇談会や本誌の編集会議を通じて学んだことから、それぞれの視点で「男女平等・共同参画」を自分たちの生活・人生に結びつけて考えてみました。

《男女平等・共同参画社会の実現を目指すうえでの課題》

●「2020年30%」の目標

国では、男女平等・共同参画を進める目標として、社会のあらゆる分野において2020年までに※指導的地位に女性が占める割合を少なくとも30%とすることを掲げています。（この目標は平成15年6月に男女共同参画推進本部が決定したものです。）しかし、政治、経済をはじめ、多くの分野において、女性の参画は十分ではありません。

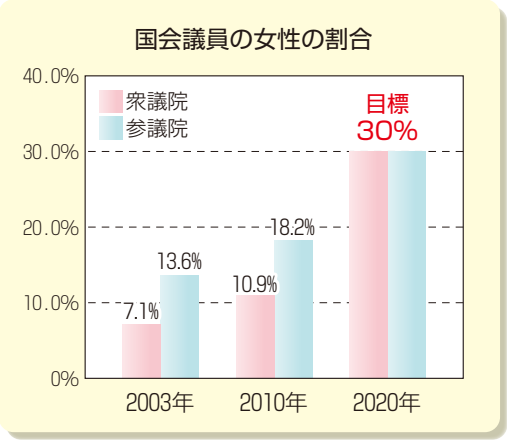
●男女の人権の尊重

男女が互いに人権を尊重し、男性も女性もひとりの人間として能力を発揮できる機会を確保することが大切です。しかし、DV（配偶者や恋人など親密な関係にある、またはあった者から振るわれる暴力）などの女性への暴力という重大な人権侵害が起こっています。

●家庭生活と他の活動の両立

男女が対等な家族の構成員として、互いに協力し、社会の支援も受け、仕事や学習、地域活動等ができるようにする必要があります。

※①議会議員、②法人・団体等における課長相当職以上の者、③専門的・技術的な職業のうち特に専門性が高い職業に従事する者



市民に聞きました

（ミニ地区懇談会アンケートより）

《男女平等・共同参画社会を実現するために必要なこと》

- ●男・女ではなく、人間として平等になる社会づくりをしていくこと。（40歳代男性）
- ●学童保育の充実と行政の主体的な取り組み。（40歳代男性）
- ●ひとりひとりがつながり、仲間と仲間がつながること。チャンスとタイミングがあえば、必ずネットワークは広がる。（40歳代女性）
- ●男女とも平等で自由な意見をもち、発言、行動できるような社会づくり。（10歳代男性）
- ●ワークシェアリングの推進。収入は減るが、自由な時間が作れることにより、自然に男女が助け合う環境が整えられる。（50歳代男性）
- ●いろいろな世代間の交流。（50歳代女性）
- ●行政が積極的に地域に出て、地域の人々と話し合い、問題点を見つけ、制度を作り、生活に活かしていく。（60歳代女性）

高岡市の男女平等・共同参画推進の取組みとして、男女平等EXPO高岡2011と粋メン養成講座～料理編～を紹介します。

男女平等EXPO高岡2011

毎年、ウイング・ウイング祭に合わせて開催する男女平等EXPO高岡の今年度のテーマは、～社会（みんな）で子育てマル・マル Smiie笑顔になれる場所～でした。イベントでは、昔ながらの伝承遊び等の体験の場を提供し、お父さんやおじいさんも子どもや孫とふれあい、その大切さや、楽しさに気づいていただくことができたようです。

粋メン養成講座～料理編～

「粋（いき）メン」とは、育児や家事はもとより、介護、地域活動なども積極的に楽しみ、自分自身も成長する高岡の男性のことです。今年度も、男性が楽しみながら家事に参画することを目標に、福岡地区で粋メン養成講座～料理編＊簡単家庭料理＊～を開催しました。高岡に「粋メン」が増えつつあるようです。

結婚前の私たちが思うこと

女性は外へ働きに、男性は家事を手伝う それが男女平等・共同参画…ではありません

《ポーズではなくハート》

生活の多くを占める家事と仕事。今でも「家事＝女性」「仕事＝男性」と役割が分割される傾向にあります。これは社会的に分けられたものであり、実際は男女関係なくできる事です。

近年は、男性が家事を積極的に行うことが頻繁に取りあげられてきました。しかし、役割を「男女」で区切ってそれを乗り越える、という認識だけでは男女平等・共同参画社会は実現しません。

家事や仕事の問題に関わらず、あらゆる役割を、根底にある、男性だから、女性だからという固定的性別役割分担意識を払拭し、そのうえで、得意な人、得意じゃない人、やりたい人などそれぞれの意思を尊重し、協力し合って行える関係作りが、一人ひとりに出来る男女平等・共同参画ではないでしょうか。

男だから…女だから…ということにとらわれず、自分の生き方を決めることができ、その多様性を認められる社会の実現が必要です。

《結婚したら家事・育児に専念 若い世代の新スタイル!?》

結婚前の女性の間では、結婚後は仕事を辞め、家事や育児に専念「したい」という女性も少なくありません。テレビで専業主婦を目指す女子大生の特集もされるほどです。夫に仕事を任せ、妻が家事を担うスタイルは今も昔も珍しくありません。

女性だって！と男性のように働く女性が増える時代を経て、複数の生き方の中から自分で選択できる社会に変化しているようです。より多くの人が自分で生き方を選び、それが尊重され、実現できる社会にしていかなければなりません。

日常生活の中で、こんな経験ありませんか!?

就職活動で

「女性でも、男性と同じように活躍できます！」

と書いてあっても詳しく聞くと**給与差**があった。

営業希望と言うと、採用担当者から**「女はいらん！」**と手で払われてしまった。

女性社員「店長になりたい！」
上司「結婚は？」
女性社員「したいです」
上司**「じゃあだめだな」**
上司に、結婚すると女性はすべて家庭最優先という固定観念があるよう。

実際、**結婚を理由に仕事を辞める**女性が多いことも事実。

女性を平等に…！と言いながら、女性自身は、男性に対して**女性よりも多くの収入**を求めていないか!?

子ども
「今日の授業参観、誰が来てくれるの？」
父（母に向かって）
「母親が行くのがあたりまえだろ。」
母（父に向かって）
「たまには、あなたが行ってよ。」

きっとこんな「あれれ」があなたの日常生活にも隠れているはずです。それに気付くことから一人ひとりの男女平等・共同参画が始まっています。

子育て世代が思うこと

《社会で子育て》

子供を産む性である女性。ところが、実際に子供を産むと、大変な毎日の繰り返し。今まで当たり前だと思っていたことが、こんなに大変なことだとは、思春期にはほとんど知る術もなかった、という女性が多いように感じます。

それでも、子供を育てるために、育児書とにらめっこ。そんな経験が女性なら、誰にもあるのではないでしょうか。仕事を持つ母親は、仕事と子育て、どっちが大事?と常に葛藤を繰り返し、子育てに奮闘している間に、子供はどんどん成長していきます。そして子供の成長を感じながらも、本当は比べる余地のない選択に心を痛めて、毎日を過ごしているのではないでしょうか。そこで考えなければならないのは、子育ては、父親と母親、家族、地域、社会がみんなでするものだということです。

家族のふれあいを大切にし、また、地域においても、子供達を見守り、社会全体で子供達を育てることが大切ではないでしょうか。

では、そういう社会を作るために、どうしたらいいのか、身近なことから、考えてみたいと思います。家庭においては、日常生活の中で、一人ひとりができることを家族で協力しながら行なっていく。また、学校などの教育の場においては、男女の区別なく、お互いを認めあい、支えあい、一人ひとりが個性をいかし、思いやりのある人間を形成する教育を行なう。そして地域社会では、さまざまな形で子育て支援を行なうのはもちろん、企業などでも短時間勤務制度や、さまざまな休暇制度を奨励したり、社内に保育施設を設けたりしているところもあります。そういう社会のあたりまえを作っていくことが大切ではないかと感じます。

生物学的には、男性、女性は違いますが、それぞれの人がいろいろな状況においても、個々の人権が尊重され、自身の生きがいを認識し、他と認めあえる教育現場や社会づくりをみんなで考えていく世の中にしていかなくてはなりません。

平成23年3月11日に起こった東北地方太平洋沖地震では、多くの人々が、かけがえのないものを失いました。

その一方で、困難な状況のなか、ボランティア活動等を通して、人と人との絆を再確認しました。このような形で自然は、本当に大切なものを私たち人間に教えてくれました。

私たちは、もう一度原点に立ち返り、男性も女性も一緒に、みんなの力で、住みよい社会を築いていかなければならないと感じています。

市民に聞きました

（ミニ地区懇談会アンケートより）

《男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと》

第1位 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること（59・4％）

第2位 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと（57・1％）

第3位 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること（47・2％）

そのほかの意見

- 『社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高める』というより、あたりまえの環境にすることが大切。（40歳代女性）
- 相手を互いに思いやることができれば、おのずと変えることができると思う。（性別・年齢不詳）
- 自分の子ども（長男）が家事をすることに対して、抵抗感はあまりない。（60歳代女性）

シニア世代が思うこと

《男性も女性も　一人の人間として人権尊重》

私は、戦後のベビーブームに生まれ、昭和30年代を民主主義のなかで育ち、教育を受け、18歳で自立した生活を東京で始めました。男女共同参画を掲げるのであれば、基本は家庭や家族ではないかと、今になりつくづく感じます。印象に残っているものを書き出してみると、まずわが家では、両親、祖母がそれぞれに家の仕事があり、子どもたち（私と弟）が、それを手伝っていました。そこには、男性、女性という意識や区別はなく、家族力という営みが見えていました。そのような環境でしたが、我が家には、家長制度も残っており、私と弟は食膳の茶碗や皿、箸を並べ、祖母や母が作ったおかずを盛り付け、父の帰りを待ったものでした。祖母は民生委員で、貸付の集金もしていました。母は家事、子育てなど、姑の祖母から教えられたとおり、引き継いでいました。父は公務員として働き、休日は、畑を耕し、じゃがいもや落花生などを作っていました。今でいう家庭菜園を家族も楽しみながら、作物を収穫していました。こういう自然の体験は、生きていくうえで本当に身についた財産になっています。当時は生活のために必然的だったものが、大人の知恵で、あたりまえのこととして参加していたことを考えると、大人、親が家庭でどうしてきたかが、男女共同参画であったり、平等の価値を持つものだったと思いおこされます。

たとえば、こんな事がありました。一つには風呂たきです。風呂の薪は、材木を切り、ナタで割り、束ねて軒下に保存し乾かして使いました。風呂の火をおこすことは、子どもたちの仕事でした。私も弟も父や母に火のおこし方を教わり、身体をかがめて風呂釜に薪をくべました。五右衛門風呂を焚く仕事は、大変な仕事でした。熱くてもぬるくても風呂には入られませんが、楽しく〝家の仕事〟をしました。

二つに祖母が行う「季節の行事」です。毎月掛け軸を変えるのが決まりで、その季節にあった軸が床の間を飾り、春夏秋冬を絵や字の中に感じることができました。また、生け花やお茶など変化していく美しさや生あるものの姿に、季節があり、行事が自然に生まれていくことを教えてもらいました。

三つに町内の婦人会が子どもたちのために毎月開いてくれた誕生会です。それぞれが米を一合ずつ持参し、当時としては斬新な、ちらしずしやカレーライスなどを作ってみんなでお祝いし、楽しい時間を過ごすことは、子どもたちにとっては、とても嬉しいことでした。このような地域の子育てが、やがては、子ども会として地元の電車の停留所の清掃活動へと発展していきました。これらのことは、みんなごく自然にやってこられたのに、という気持ちがあります。では、なぜ地域社会が変わっていったのかを考えてみることにします。

私が育った、戦後の高度成長期は、経済成長が国力を高め、国民を豊かに幸せにすると信じられ、都市化が進み、地方から都会への人口の移動が起こった時代です。そこには、競争社会が生まれ、いかにして勝ち残るかを必死で模索した結果、「男を採用」「女はいらない」や、「男だから」「女のくせに」など性別役割分担の見方や考え方が、いっそう広がり、ますます男社会となりました。サラリーマンの多くは、父親（男）は仕事、母親（女）は家を守る、という家庭で、「誰に食べさせてもらっているのか」という考えが広がりました。転勤族、単身赴任など、家族形態が変わることで、従来あった家族や地域で支えあう価値観が変化していきました。後に、私の地域活動やボランティアの原点になっています。一方、時代の流れのなかで女性の高学歴などが、力をもたらすようになります。女性は夫との結婚による一生ではなく、自分自身の人生も歩めるのだと気づいて変わっていきました。

男女共同参画社会を言葉で表すのは難しいですが、自分をふりかえってみると、本来の自分がしたかったことや、なりたかったもの、男性も女性も一人の人間として人権が尊重され、「私の生き方や、人生」が実現できることだと思えます。私が経験したことは、変わらない価値観として人格形成に影響しています。

「人間として」という育ち方を与えてくれた家庭環境に感謝しつつ、次の世代に向けて、家庭や教育の中で根づいていくように考えてほしいと願います。

男女がいきいきと働ける事業所 紹介

北陸コカ・コーラボトリング株式会社

（平成23年度　女性が輝く元気企業とやま賞　受賞）

「女性が輝く元気企業とやま賞」は、女性の登用や能力向上の取り組みに積極的で、女性が職場でいきいきと活躍している企業を県が表彰するものです。

今回、北陸コカ・コーラボトリング株式会社は女性の管理職の登用や仕事と家庭の両立支援を評価されての受賞となりました。

具体的にどのような取り組みをされているのか、11月17日、北陸コカ・コーラボトリング株式会社総務人事部シニアプランニングマネジャーの宮崎としみさんの講演を聞きました。

講演要旨

北陸コカ・コーラボトリング株式会社では、働く女性の活躍を推進するさまざまな取り組みを行なっています。

女性の契約社員から正社員への登用や、一般職から総合職への転換等を図る制度の導入、学童保育を利用する従業員向けの時差出勤制度や育児・介護のための独自の短時間勤務制度を設けているほか、男性社員の育児休業取得の奨励にも取り組んでいます。

また、通信教育制度も奨励しており、私自身も制度を利用して、働きながら社会保険労務士の資格を取得し、それを強みとして、仕事にも活かしています。

このようなさまざまな取り組みにより、女性自身の仕事に対する意欲が高まり、男女がいきいきと働ける職場がつくられます。今後も地域のみなさまとともに活動していきたいと思っています。

高岡市では、男女平等・共同参画に関する2つの計画を策定しました。

◆高岡市男女平等推進プラン後期事業計画

＝NEXTアクション100＝

2012年度～2016年度

- ●女性の参画促進
- ●地域における推進
- ●仕事と生活の調和の推進
- ●男性、子どもにとっての推進
- ●DV対策
- ●市民等との連携・協力

によって、男女平等・共同参画を推進します。

◆高岡市DV対策基本計画

～暴力を許さない社会を目指して～

2012年度～2016年度

配偶者等からの暴力をなくすことに努め、被害者の保護と支援を行います。

ひろめる　●暴力を許さない意識づくり

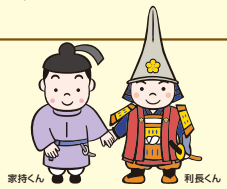
あんぜん・あんしん
- ●安心して相談できる体制の整備
- ●被害者の安全確保

ささえる　●被害者の自立支援

みんなのちからで
- ●暴力を許さない高岡ネットワーク

＊計画は、男女平等・共同参画課のホームページで公開しています。

＊問い合わせは、男女平等・共同参画課（電話20－1812）、ウイング・ウイング高岡6階男女平等推進センター内



セピア色の写真から

「児童福祉を支えた女性」

東外枝さん

（一八八九～一九七六年）

太平洋戦争後、日本中が極度に衣食住に困っていたころ、高岡でも生活状況は極度に悪く、毎日生きるために食料などを求めて買いだしに出るという大変な日々を送っていた。そんな時代のなか、戦争で親を亡くした子供達を救うために尽力した女性がいた。東外枝である。

東外枝は、一八八九年（明治二十二年）に、長楽寺（横田町）の隣地に生まれた。看護師となった外枝は、外科医東喜平と結婚し、東病院（現在のホテルニューオータニ高岡の場所に所在）の院長の妻として病院を支える一方、地域の婦人会活動に尽力した。

一九五一年（昭和二十六年）、高岡市連合婦人会会長となった外枝は、砺波市の民生委員として活躍していた女性からの、呉西地区にも親を亡くした子供達を収容する施設を建設してはどうか、との進言をうけ、呉西地区の婦人会の総力を結集して施設建設のための活動を開始した。呉西各郡市の婦人会長を委員とし、外枝を会長とする建設委員会は、設置場所を高岡とし、施設建設基金を集めるための、総額二五〇万円の募金活動に着手した。地元高岡では、花見のシーズンには古城公園で売店を開き、また、当時日本を代表するオペラ歌手の藤原義江を招いてコンサートを開くなど、各校下の協力のもと、様々な募金活動をおこなった。その間、富山県や高岡市に施設建設の陳情にも出かけた。

二年余りの活動を経て、呉西地区婦人会員の努力により生み出された、二五〇万円の募金が富山県に寄付され、これを基金として県の認可を受けて、一九五三年（昭和二十八年）、県の事業として施設の着工、完成へと導かれた。（現在は、社会福祉法人愛育園）。外枝は地元高岡市の会長として園長に推され、二十三年間を園長として務め、また、生涯の大半を地域婦人会長として児童福祉や、地域社会の活動にささげた。

また、保育士の養成校として高岡市に建設された県立保育専門学院や、県婦人会館の建設についても、高岡市連合婦人会として、全会員の熱意を以って、募金活動に取り組み、事業を成し遂げた。

このような外枝の献身的な活動を感じることができる胸像が、愛育園の正面玄関前にある。その碑文には次のように書いてある。「東外枝先生は一八八九年（明治二十二年）三月三十一日高岡市百姓町に生まれ、一九七六年（昭和五十一年）七月二十六日新横町において亡くなられた。享年八十七歳、ときに従六位勲五等に叙せられる。先生は婦人会、社会福祉など各方面で活躍、その功少なからず、愛育園の設置に率先して立ち上がり、愛育園新設と共に園長として二十三年間在職し、その間私財を投入し、児童処遇の向上、施設の整備充実に努められた…。」

外枝の胸像（愛育園）

外枝は亡くなっているが、その教えや心は、愛育園の職員や社会福祉事業に取り組む人々、幼少期を愛育園で過ごした人々にも、受け継がれている。

愛育園を巣立ち、社会に出た子供達にとって、外枝は今でも偉大な母である。

【参考文献】

『高岡を愛した先人たち』
（東　外枝 執筆　山本　和代子）
編集・発行　高岡商工会議所

『わがまち高岡　第三集　―高岡の先賢―』
編集　高岡市中学校教育研究会
社会科部会
発行　社団法人　高岡青年会議所

『高岡市婦人会史　―五十年のあゆみ―』
編集・発行　高岡市連合婦人会

高岡市男女平等推進センター 活動登録団体紹介

NPO法人 Nプロジェクトひと・みち・まち

Nプロは、女性の視点をいかし、いろいろな人や組織をつないで、「未来を見据えた地域づくり」「みんながいきいきと安心して暮らせる高岡」をめざして活動しています。立場の違う市民がお互いに知恵を出し合い、協力して、できることを実現していきます。「**ひと**：DV防止や健康についての取り組み」「**みち**：歩きや自転車で安全に暮らせる生活環境づくり」「**まち**：シビックプライドセミナー」など、プロジェクトごとに取り組んでいます。

☆詳しくはHPにて☆

http://www.npo-npro.com/

Network
Nature
NPO
New
Needs.....

みらい高岡

高岡をみんなが楽しく生きられるまちにしたいと思い、多方面にわたり活動しています。これまで、「NPO交流会」を開催したり、「コミュニティハウスひとのま」での取り組みを事例に挙げ、みんなが認め合える社会づくりをみんなと考える機会をつくったりしてきました。これからは「コミュニティハウスひとのま」を拠点に様々な違いを超えた交流を生み出していきます。

詳しくは「コミュニティハウスひとのま」

http://hito-noma.jimdo.com

までお越しください！

あなたのグループもセンターに登録しませんか？

登録されると、センターをグループ・団体の拠点として活用できます。（交流スペース、活動用ロッカーの無料利用等）

センターのホームページ（http://www.city.takaoka.toyama.jp/kikaku/0208/gec/）で、
上記以外の登録団体・グループも紹介しています。

◆高岡市男女平等推進プラン情報誌「ありーて」は男女平等・共同参画の推進を目的に、公募による市民編集員が企画・編集しています。

編・集・後・記

男女という立場の在り方一つを通しても、私たちの生活は多様性に満ちた未来がある事を実感した２年間でした。多くの悩みを皆で共有し、新しい在り方を皆で模索していくことが、未来への新たな一歩に繋がると感じた貴重な時間でした。有難うございました。

（岡本実千代）

２年間の編集委員は、ふるさと高岡への想いと両親への感謝の気持ちからでした。男女共同参画の持つ意味や地域性は少しずつ変化してきており、『継続は力なり』だと感じます。世代が異なるスタッフとのコミュニケーションはとても楽しく、よい刺激となりました。有難うございました。

（村井佐和子）

本誌の編集会議を通じて、意外にも、20代の私のまわりでは自然に男女平等・共同参画の考え方が広まっているようだという実感が湧きました。世代間の違いをとても感じましたが、それを互いに共有できたことが、とても貴重な経験になりました。

（山田早由希）

ありーて キャラクターデザイン：山崎 可菜さん（高岡市在住）　P3・P4イラスト：岡本実千代さん（編集員）

発行／高岡市男女平等推進センター

〒933-0023 高岡市末広町1-7（ウイング・ウイング高岡6階）
電話／0766-20-1810　ＦＡＸ／0766-20-1815
E-mail／gec@city.takaoka.lg.jp
ホームページ／http://www.city.takaoka.toyama.jp/kikaku/0208/gec/

●「ありーて」は上記のＨＰでもご覧いただけます。
●この情報誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。